GSW-0801

取扱説明書

http://www.corega.co.jp/

PN J613-M6855-00 Rev.A 010413

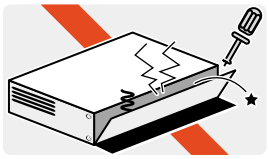
安全のために

必ずお守りください

警告 下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により、**死亡や大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

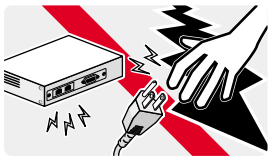
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときは
さわらない

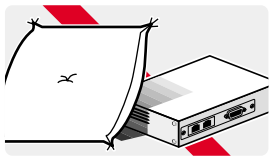
異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)

異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

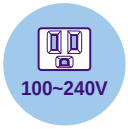
湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

設置場所
注意

表示以外の電圧では使用しない

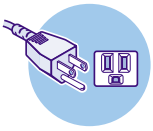
火災や感電の原因となります。
本製品は AC100 - 240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

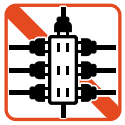
不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3 ピン
コンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

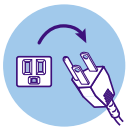
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。
電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：
・加工しない、傷つけない。
・重いものを載せない。
・熱器具に近づけない、加熱しない。
・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）

このマニュアルについて

このたびは、corega GSW-0801をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は100BASE-TX/10BASE-Tポートを8ポート、1000BASE-Tポートを1ポート装備したファーストイーサネット・スイッチです。

1000BASE-Tポートをトラフィックが集中するサーバー、バックボーンなどに接続することにより、ネットワークのボトルネックを解消します。
また、内蔵されたソフトフェアによって、ターミナルポートからポートの通信モードや、VLAN、トランキングなどの各種設定が可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、ソフトウェアの設定方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン

アイコン		意味
	ヒント	重要な情報や指示を示します。
	注意	人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
	警告	人体に重大な危害がおよぶ恐れがあることを示します。
	手順	操作手順を示します。
	参照	参照ページ・参照項目を示します。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1　はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2　ソフトウェアの設定

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

3　付録

トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

4　保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書の記入方法について説明しています。

目　次

安全のために ii
このマニュアルについて iv
表記規則 iv
マニュアルの構成 v

はじめに 1

1-1 内容物をご確認ください 2
1-2 特　長 3
1-3 各部の名称と働き 4
前面 4
背面 6
側面 6
1-4 LED 表示 7
ポート LED 7
ステータス LED 7
1-5 設　置 8
設置するときの注意 8
設置方法 8
1-6 接　続 10
ネットワーク機器を接続する 10
コンソールを接続する 12
電源ケーブルを接続する 13

ソフトウェアの設定 15

2-1 ターミナルソフトの設定 16
「ハイパーターミナル」の設定手順 16
2-2 メニューの設定 18
メニュー項目 18
設定画面の操作方法 19
ポート設定 20
ポートトランキング 23
ポートミラーリング 25
プライオリティキュー 26
バーチャル LAN 27

付　録 29

3-1 トラブルシューティング 30
トラブルと思ったら 30
3-2 仕　様 32
コネクター / ケーブル仕様 32
電波障害自主規制について 34

保証とユーザーサポート 35

4-1 保証とユーザーサポート 36
保証と修理について 36
corega 製品の情報を知りたいときには 37
ユーザーサポートについて 37
4-2 調査依頼書のご記入のお願い 38
使用しているハードウエアについて 38
お問い合わせ内容について 38
ネットワーク構成について 38
おことわり 39
調査依頼書（corega GSW-0801） 41

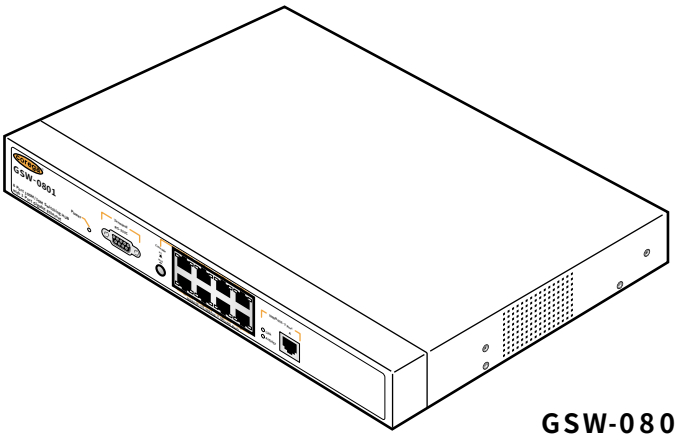
1

はじめに

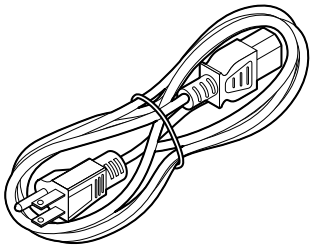
本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

1-1　内容物をご確認ください

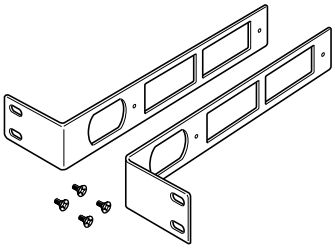
本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。
お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。



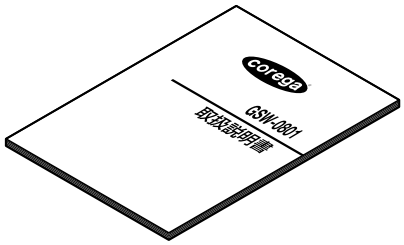
GSW-0801　1台



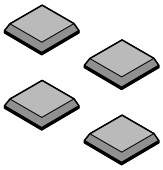
電源ケーブル（2m）　1本



ブラケット　　2個
ブラケット用ネジ　4個



取扱説明書　1冊
（本書は製品保証書もかねております）



ゴム足　4個

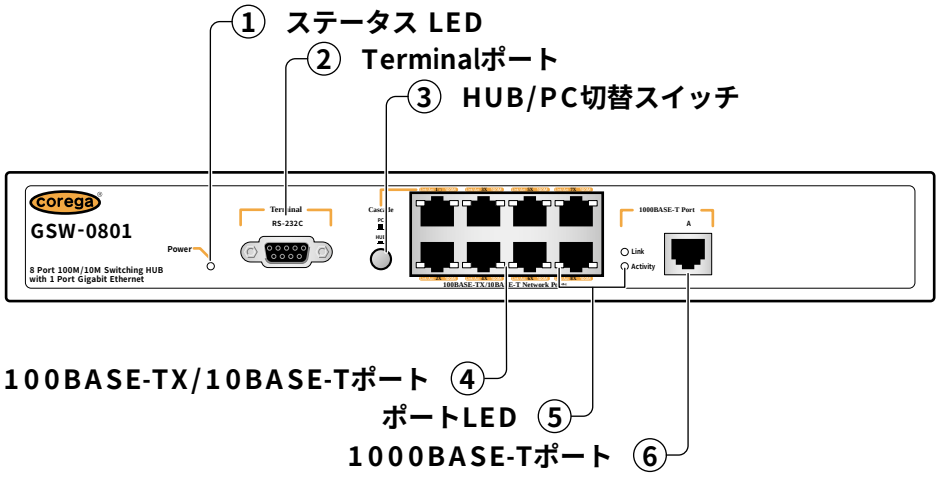
シリアル番号シール　1シート

1-2 特　長

- □ 8 ポートの 100BASE-TX/10BASE-T ポートを装備
- □ 1 ポートの 1000BASE-T ポートを装備
- □ ポートごとにオートネゴシエーション、Full duplex/Half duplex の通信モード、10Mbps/100Mbps の通信速度が設定可能（100BASE-TX/10BASE-T ポート）
- □ ポートベース VLAN を最大 9 グループまで設定可能
- □ QoS 機能をサポート
- □ ポートトランキング機能をサポート
- □ ポートミラーリング機能をサポート
- □ バックプレッシャー / フローコントロール機能をサポート
- □ 最大 16,000 個の MAC アドレスを登録可能
- □ 信頼性の高いストア＆フォワードのスイッチング方式
- □ RS-232C コネクターで接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能

1-3　各部の名称と働き

前面



① ステータス LED

システムの状態をモニターするための LED ランプです。

参照 7 ページ「1-4 LED 表示」

□ Power

電源の供給状態を表します。

②（RS-232C）Terminal ポート

本体とコンソールとを接続してソフトウェアを使用するためのコネクターです。コネクターは9ピンメスタイプです。ケーブルはRS-232Cストレートケーブルを使用します。

③ HUB/PC 切替スイッチ

ポート 1 をカスケード接続用ポートとして使用するか、通常の 100BASE-TX/10BASE-Tポートとして使用するかを設定するためのスイッチです。出荷時設定は「PC」です。

HUB

カスケード接続するときのカスケード接続用ポート（MDI）として使用します。

PC

通常の 100BASE-TX/10BASE-T ポート（MDI-X）として使用します。

④ 100BASE-TX/10BASE-T ポート

10BASE-T、または100BASE-TX のUTP ケーブルを接続するためのコネクターです。このポートは、接続先の機器に応じて通信モード（Full/Half duplex）と通信速度（10/100Mbps）を自動検出して、最適な状態で接続する Auto（オートネゴシエーション）がデフォルトで設定されています。
ケーブルは 10BASE-T の場合はカテゴリー 3 以上、100BASE-TX の場合はカテゴリー 5 の UTP ケーブルを使用します。

⑤ ポート LED

ポートと接続先の機器の通信状況をモニターするための LED ランプです。
参照 7 ページ「1-4 LED 表示」

― 100BASE-TX/10BASE-T ポート―

□ Link/Act

ポートと接続機器とのリンクが確立し、相互に通信が可能な状態にあるときに点灯します。またパケットの送受信が正常に行われているときに点滅します。

□ 100M

ポートが100F（100M Full）/100H（100M Half）に設定されているか、Auto設定時に100Mbps で動作しているときに点灯します。消灯している場合は、10Mbps で動作していることを示します。

― 1000BASE-T ポート―

□ Link

ポートと接続機器とのリンクが確立し、相互に通信が可能な状態にあるときに点灯します。

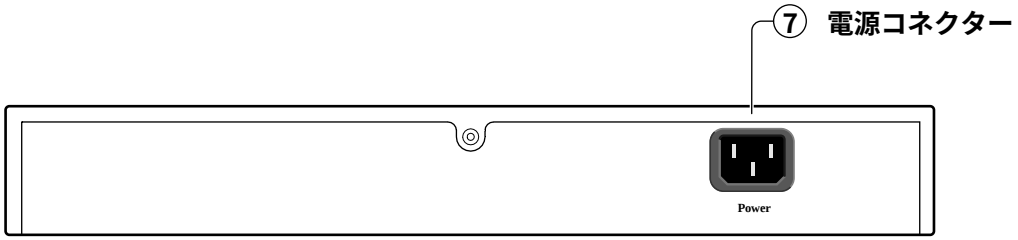
□ Activity

パケットの送受信が正常に行われているときに点灯します。

⑥ 1000BASE-T ポート

1000BASE-TのUTPケーブルを接続するためのコネクターです。このポートは、接続先の機器に応じて通信モード（Full/Half Duplex）、クロックモード（Master/Slave）を自動検出して、最適な状態で接続するオートネゴシエーションポートです。通信速度は 1000Mbps 固定となります。
ケーブルはエンハンスド・カテゴリー 5（および同等仕様）の UTP ケーブルを使用します。

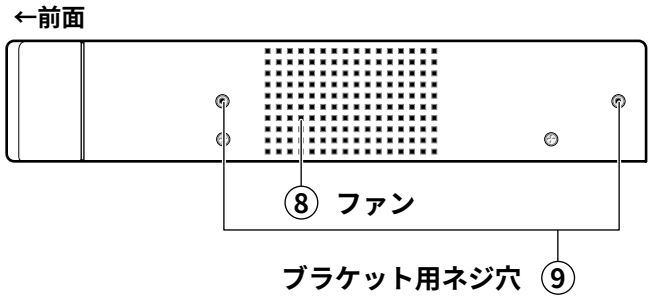
背面



⑦ 電源コネクター
電源ケーブルを接続するためのコネクターです。

側面

（右側面）



⑧ ファン
熱を逃がして空気の循環をよくするためのファンです。
※本体左側面のスリットなどは通気口です。

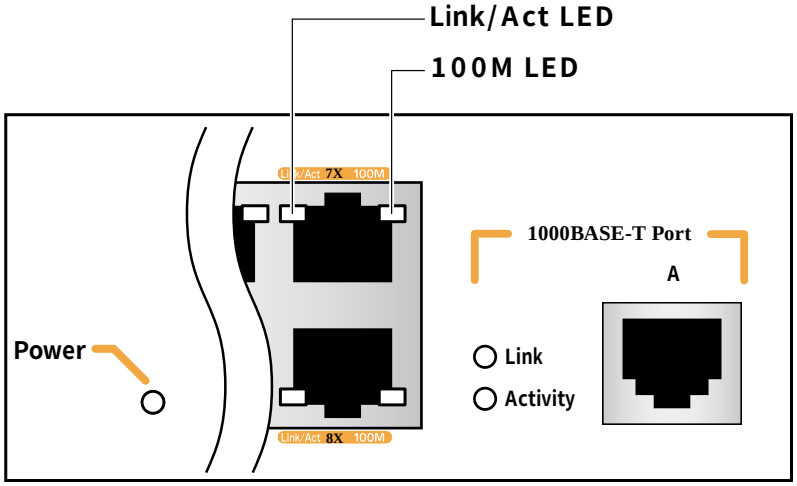
⑨ ブラケット用ネジ穴
同梱の 19 インチラック用ブラケットを取り付けるためのネジ穴です。
参照 **9 ページ「19 インチラックへの取り付け」**

通気口やファンをふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

1-4　LED表示

ポートLED

本体前面には、スイッチ全体や各ポートの状態を示す LED ランプがついています。



□ 100BASE-TX/10BASE-T ポート

LED	色	状態	表示内容
Link/Act	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
		消灯	リンクが確立されていません。
100M	緑	点灯	100F(100M Full)/100H(100M Half)に固定設定されているか、もしくは、Auto設定時に100Mbpsで動作しています。
		消灯	10Mbpsで動作しています。

□ 1000BASE-T ポート

LED	色	状態	表示内容
Link	緑	点灯	リンクが確立しています。
		消灯	リンクが確立されていません。
Activity	緑	点灯	パケットを送受信しています。
		消灯	パケットが送受信されていません。

ステータスLED

LED	色	状態	表示内容
Power	緑	点灯	本体に電源が供給されています。
		消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。

1-5 設　置

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ずiiページの「安全のために」をよくお読みください。
設置場所については、次の点にご注意ください。

- □ 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。
- □ テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- □ 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- □ 本体の上に物を置かないでください。
- □ 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

設置方法

設置方法には、水平な場所に設置する方法と、EIA規格の標準ラックに取り付ける方法があります。

デスクの上など水平な場所への設置

1. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。

2. 本体側面のファンと通気口をふさぐものがなく、水平で安定した場所に設置します。

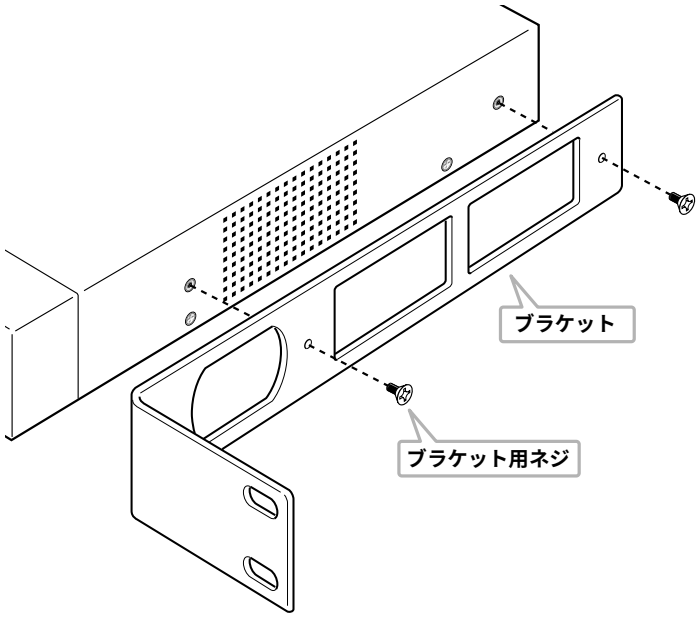
本製品をデスクの上などに設置する場合は、本体四隅にある□マークの位置に必ず付属のゴム足を取り付けてください。本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役目をします。また、貼り直しは粘着力を弱めますのでご注意ください。

19インチラックへの取り付け

同梱のラック用ブラケットを使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

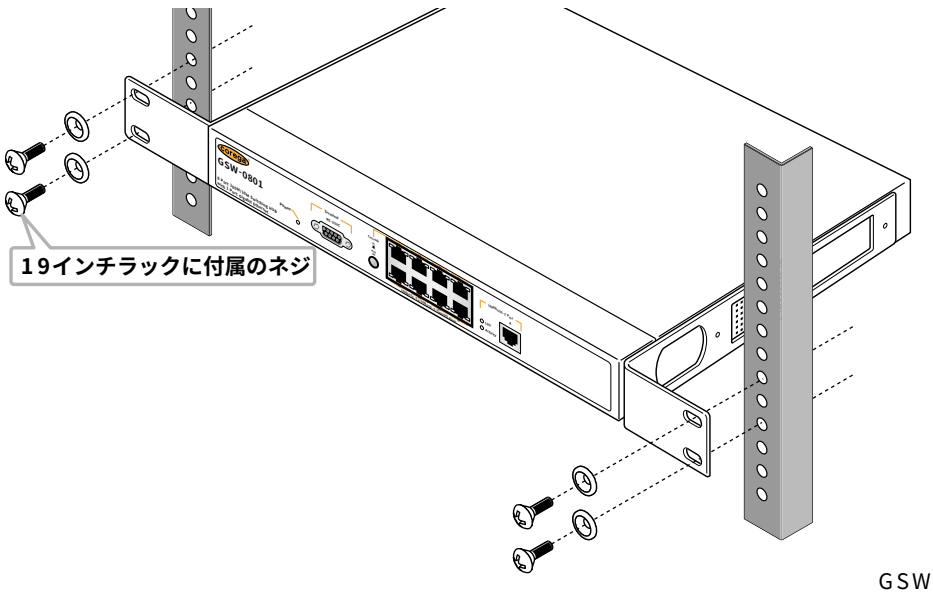
1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。

2 本体側面にブラケットを合わせ、ブラケット用ネジでしっかりと固定します。



3 19インチラックの希望する位置に本体を合わせて、ラックに付属しているネジでしっかりと固定します。

ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用し、ラックに付属しているネジで確実に固定してください。
固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。



1-6 接 続

ネットワーク機器を接続する

ケーブル

10BASE-Tの場合はカテゴリー3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリー5以上のUTP ケーブルを使用します。
1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリー5（および同等仕様）のUTPケーブルを使用してください。

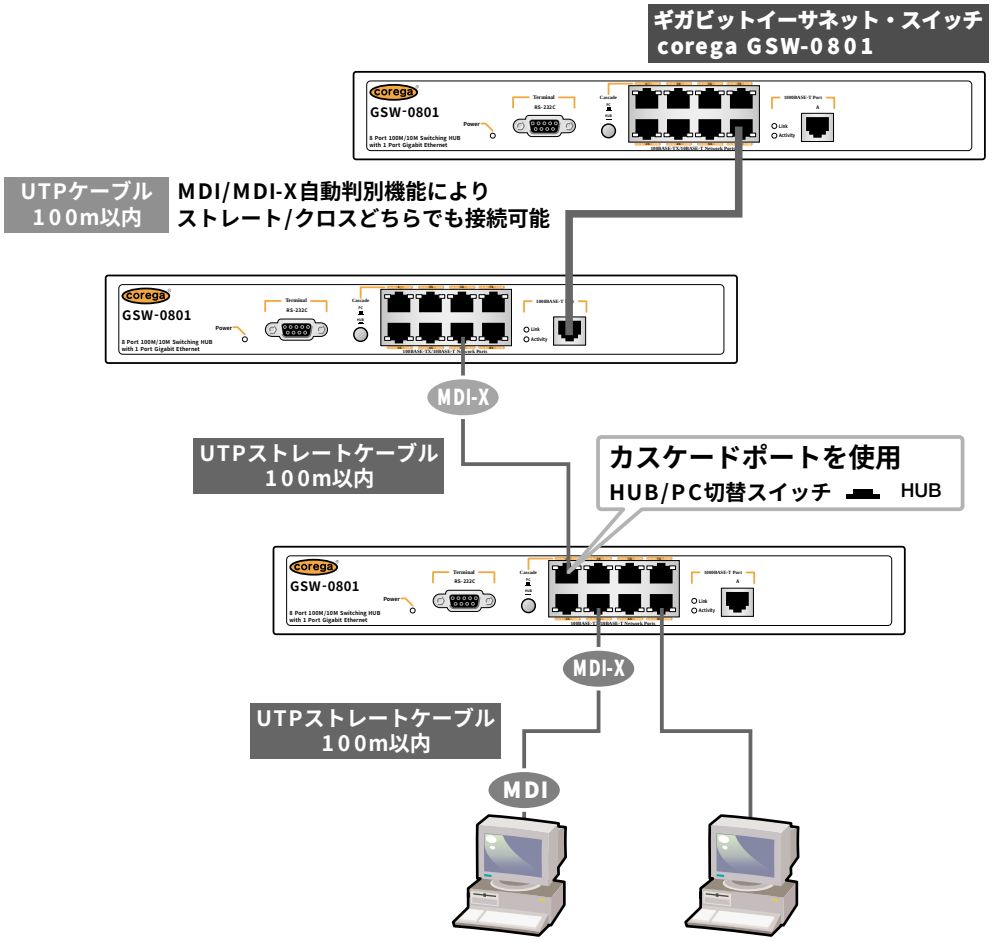
規格	種類
10BASE-T	UTPカテゴリー3*以上
100BASE-TX	UTPカテゴリー5*以上
1000BASE-T	UTPカテゴリー5E（エンハンスド・カテゴリー5）/UTPカテゴリー5＋

本製品と端末を接続するケーブルの長さ、また、本製品とリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて 100m 以内です。

ストレートタイプ / クロスタイプ

UTP ケーブルにはストレートタイプとクロスタイプがあります。
100BASE-TX/10BASE-TポートとPCやワークステーションなどの端末(MDIポート)を接続する場合は、ストレートタイプを使用します。
100BASE-TX/10BASE-T ポートとリピーターやスイッチ(MDI-X ポート)をカスケード接続する場合は、通常クロスタイプを使用しますが、カスケードポート(ポート 1)を使用すれば、ストレートタイプのケーブルで接続することができます。
この場合、HUB/PC 切替スイッチを「HUB」に設定してください。

1000BASE-Tポートは、MDI/MDI-X自動判別機能によりストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。



― MDI/MDI-X 自動判別機能―

MDI/MDI-X 自動判別機能とは、自動的にケーブル結線を認識してポートの MDI/MDI-Xを設定する機能です。この機能により、接続先ポートのMDI/MDI-Xに関わらず、ストレート / クロスのどちらのケーブルタイプでも接続することができます。

コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵ソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232Cストレートケーブルで、本体前面ターミナルポートとコンソール側のRS-232Cコネクターを接続します。

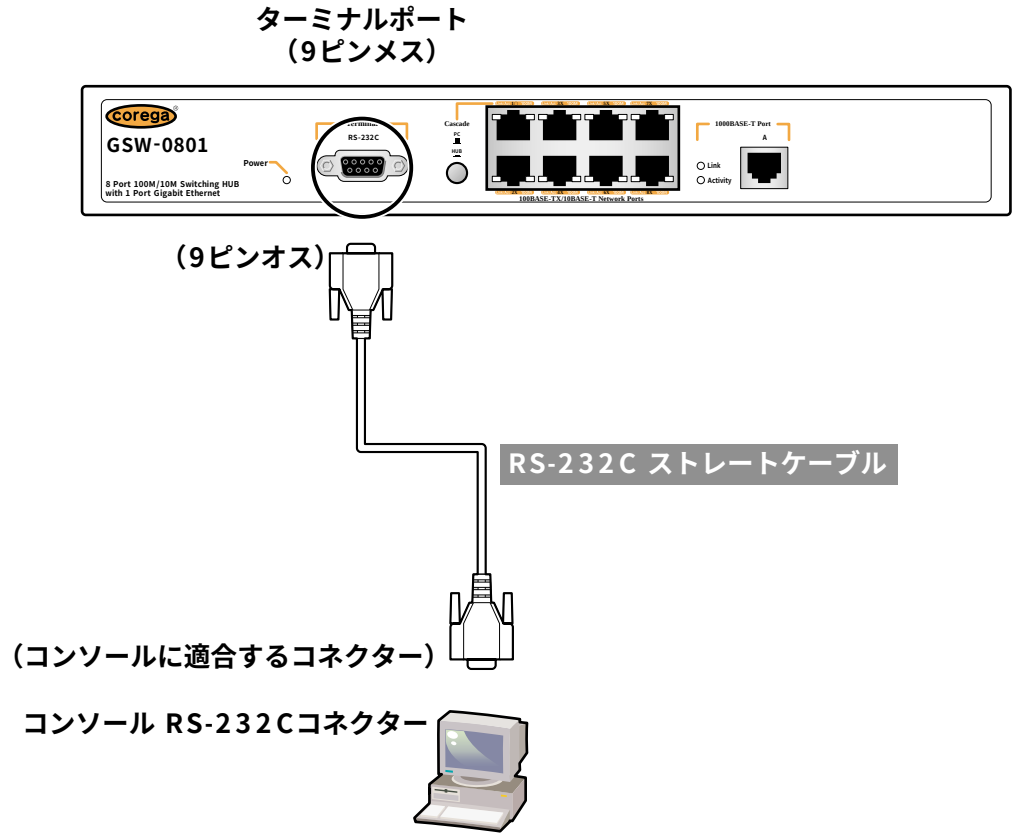
ターミナルエミュレーションソフトの設定については、2章の「ソフトウェアの設定」で説明します。

コンソール

コンソールは、VT-100互換のターミナルエミュレータを実行するRS-232Cコネクター付き PC およびワークステーション、または RS-232C コネクター付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

ケーブル

ケーブルは、RS-232C ストレートケーブルで、一端が 9 ピンオスの D-sub コネクター、もう一端がコンソールのRS-232Cコネクターに適合するものを使用します。



電源ケーブルを接続する

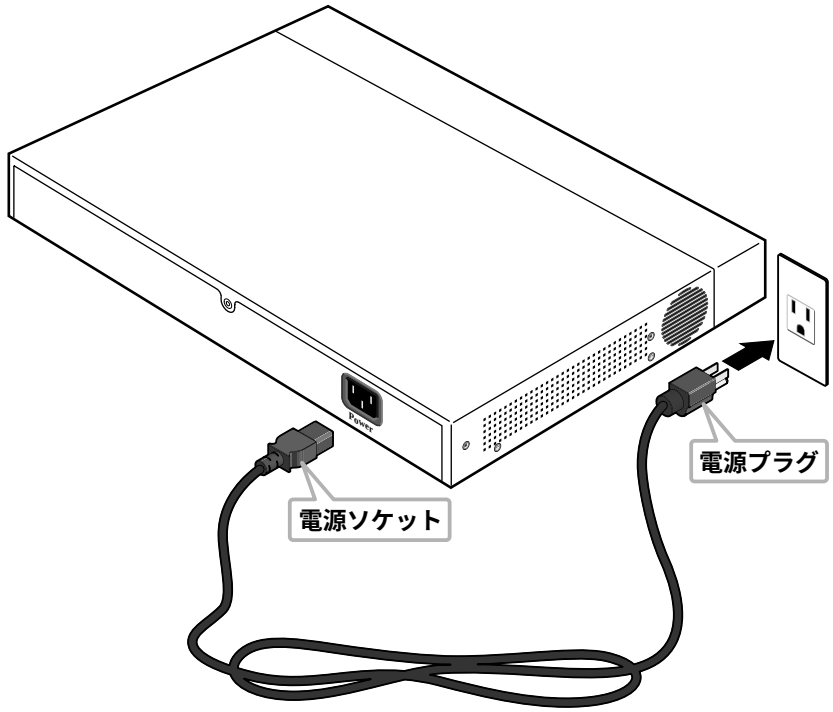
本製品は電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

本体の起動

1 電源ケーブルの電源ソケットを本体背面の電源コネクターに接続します。

2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。

3 電源が入ると、Power LED が緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
電源プラグに電源コンセントを接続したまま、電源ソケットを抜かないでください。

本製品をAC 100～120Vで使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。
また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。
不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

2

ソフトウェアの設定

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

2-1　ターミナルソフトの設定

PC（ワークステーション）をターミナルとして使用するため、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアの設定方法について説明します。
（コンソール用RS-232Cストレートケーブルは、COM1に接続することとします。）

「ハイパーターミナル」の設定手順

Windows 95/98/Me/2000、Windows NT4.0が動作するPCやワークステーションでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ハイパーターミナル」（Hypertrm.exe）を使用することができます。

1 **Windows 95の場合**―［スタート］メニューの中から［プログラム］->［アクセサリ］->［ハイパーターミナル］を選択して、ハイパーターミナルフォルダ内の「Hypertrm.exe」をダブルクリックして起動します。
Windows 98/Me/2000の場合 ―［スタート］メニューの中から［プログラム］->［アクセサリ］->［通信］->［ハイパーターミナル］を選択して、起動します。
Windows Meは標準インストールの状態(プリインストールモデルのPCなど)では、「ハイパーターミナル」はインストールされていません。そのため「アプリケーションの追加と削除」により、PCに付属のCD-ROMなどから「ハイパーターミナル」をインストールしてください。
Windows NT4.0の場合 ―［スタート］メニューの中から［プログラム］->［アクセサリ］->［ハイパーターミナル］->［ハイパーターミナル］を選択して、起動します。

2 「接続の設定」ダイアログボックスで、適切な名前を入力し、アイコンを選んで、［OK］ボタンをクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、［いいえ］をクリックします。

3 **Windows 95の場合**―「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。
［接続方法］の欄で、［COM1へダイレクト］を選択して、［OK］ボタンをクリックします。
Windows 98/Me/2000の場合―「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
［接続方法］の欄で、［COM1へダイレクト］を選択して、［OK］ボタンをクリックします。
Windows NT4.0の場合―「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
［ポートの設定］タブの［接続方法］の欄で、［COM1］を選択して、［OK］ボタンをクリックします。

4　「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、［OK］ボタンをクリックします。

5　「XXXX-ハイパーターミナル」のような、先ほど設定した名称のウィンドウが表示されます。
［ファイル］メニューの中から［プロパティ］を選択すると、「XXXXのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
［設定］タブを下図のように設定して、［OK］ボタンをクリックします。

6　以上で設定が終わりました。
Enterキーを数回押すと、内蔵ソフトウェアのセッションが開始され、メインメニューが表示されます。

2-2　メニューの設定

メニュー項目

本製品のメニューは次のような構成になっています。
各項目の機能と設定の方法をメニュー画面の上から順に説明していきます。

ポート設定
Port Configuration

- ☐ **Speed**
  通信モード（通信速度）を設定します。
- ☐ **FlowCtrl**
  フローコントロールの有効・無効を設定します。

ポートトランキング
Trunking Group Configuration

- ☐ **MemberPorts**
  トランキンググループのポート番号を指定します。

ポートミラーリング
Port Mirroring

- ☐ **Source Port**
  パケット解析を行うポートを指定します。
- ☐ **Destination Port**
  モニタリング用のデバイスを接続するミラーポートを指定します。

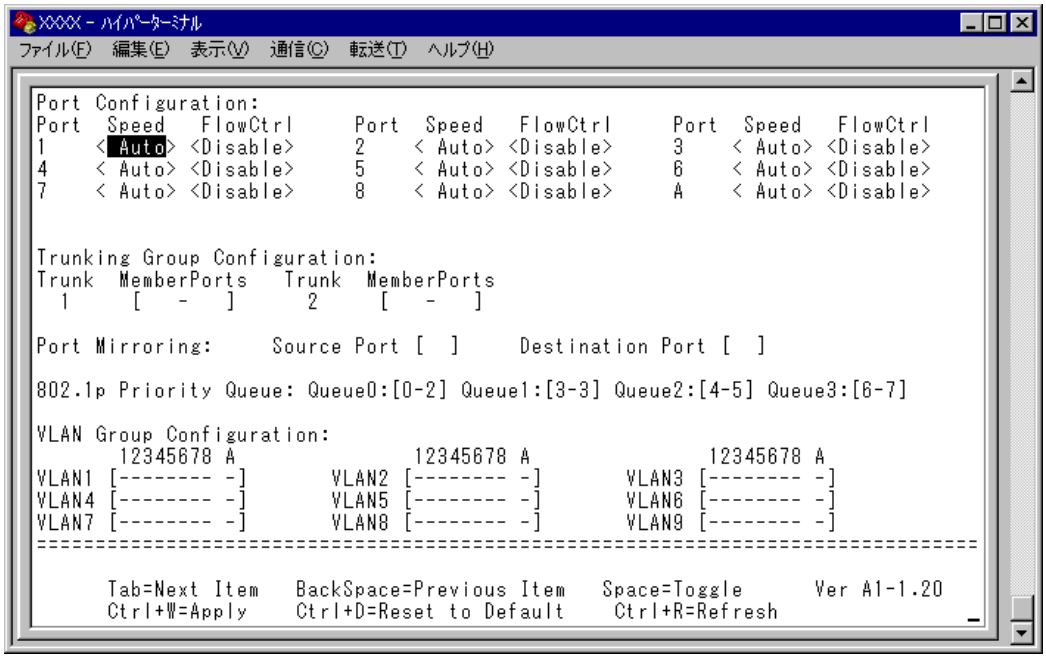
プライオリティキュー
802.1p Priority Queue

- ☐ **Queue0～3**
  Queue0 ～ 3 に割り当てるタグの値を指定します。

バーチャル LAN
VLAN Group Configuration

- ☐ **VLAN1～9**
  VLAN1 ～ 9 に割り当てるポートを指定します。

設定画面の操作方法



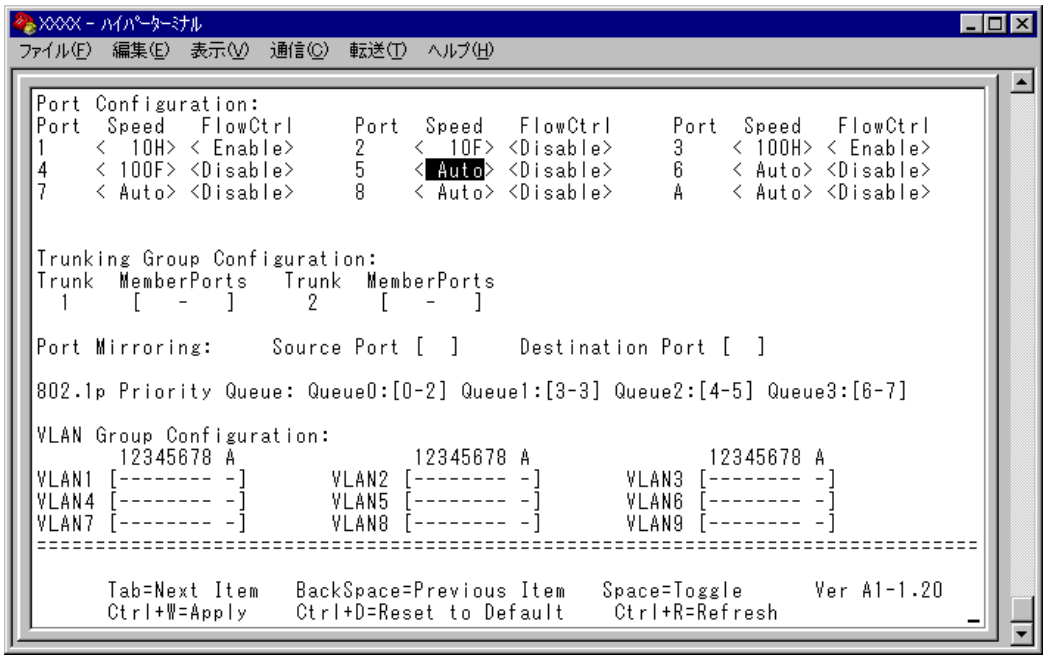
ソフトウェアにアクセスすると次のような画面が表示されます。画面に何も表示されない場合は、Ctrlキー＋Rキーを数回押すと再表示を行います。

□コマンドキーについて

画面操作は以下のコマンドキーを使用して行ってください。
また、設定画面の最下部に表示されます。

Tab	**次の項目にカーソルを移動します。**
Back Space	**前の項目にカーソルを移動します。**
Space	**設定内容の切り替え、選択を行います。**
Ctrl+W	**設定内容を有効にし、システムにデータの書き込みを行います。 設定内容の変更後は必ずこの操作を行ってください。**
Ctrl+D	**すべての設定をデフォルトの値に戻します。**
Ctrl+R, Enter	**画面の再表示を行います。**

ポート設定
Port Configuration



Speed

□ポート１～８(100BASE-TX/10BASE-Tポート)

ポート1～8（100BASE-TX/10BASE-Tポート）の通信速度と通信モードを設定します。デフォルトはAutoです。

Auto	接続先の通信機器に応じて通信速度（10Mbps/100Mbps）、通信モード（Half duplex/Full duplex）を自動検出して、最適な設定で接続します。
10F	通信速度10Mbps、通信モードFull duplex（全二重）固定になります。
10H	通信速度10Mbps、通信モードHalf duplex（半二重）固定になります。
100F	通信速度100Mbps、通信モードFull duplex（全二重）固定になります。
100H	通信速度100Mbps、通信モードHalf duplex（半二重）固定になります。

□ポート A（1000BASE-T ポート）

Auto　　接続先の通信機器に応じて通信モード（Half duplex/Full duplex）、クロックモード（Master/Slave）を自動検出して、最適な設定で接続します。通信速度は1000Mbps固定となります。

通信モードは、必ず接続先の機器を確認して、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

100BASE-TX/10BASE-T ポート

自ポート（ポート1～8） ＼ 相手ポート		10M		100M		Auto
		Half	Full	Half	Full	
10M	Half	○	—	—	—	○
	Full	—	○	—	—	—
100M	Half	—	—	○	—	○
	Full	—	—	—	○	—
Auto		○	—	○	—	○

1000BASE-T ポート

自ポート（ポートA） ＼ 相手ポート		100M			1000M				
		Half	Full	Auto	Half Master	Half Slave	Full Master	Full Slave	Auto
通信速度 1000M固定	Auto	–	–	–	–	–	–	–	○

―クロックモード（Master/Slave）―

1000BASE-Tでは、1つのリンクセグメントを共有する2つのステーション間においてマスターとスレーブという関係が確立されます。マスターはローカルのクロックを使用して送信のタイミングを決定しますが、スレーブはマスターからの受信信号によってクロックを再生し、送信のタイミングを決定します。このようにして、2つのステーション間で受信信号の同期を行い、クロックのずれによる受信エラーの発生を防ぎます。

マスターとスレーブの関係はオートネゴシエーションによって決定されますが、通常、リピーターやスイッチなどのマルチポートデバイスはマスターに、PCやワークステーションなどのシングルポートデバイスはスレーブに設定されます。

FlowCtrl

フローコントロール機能の有効・無効を設定します。デフォルトは無効（Disable）です。

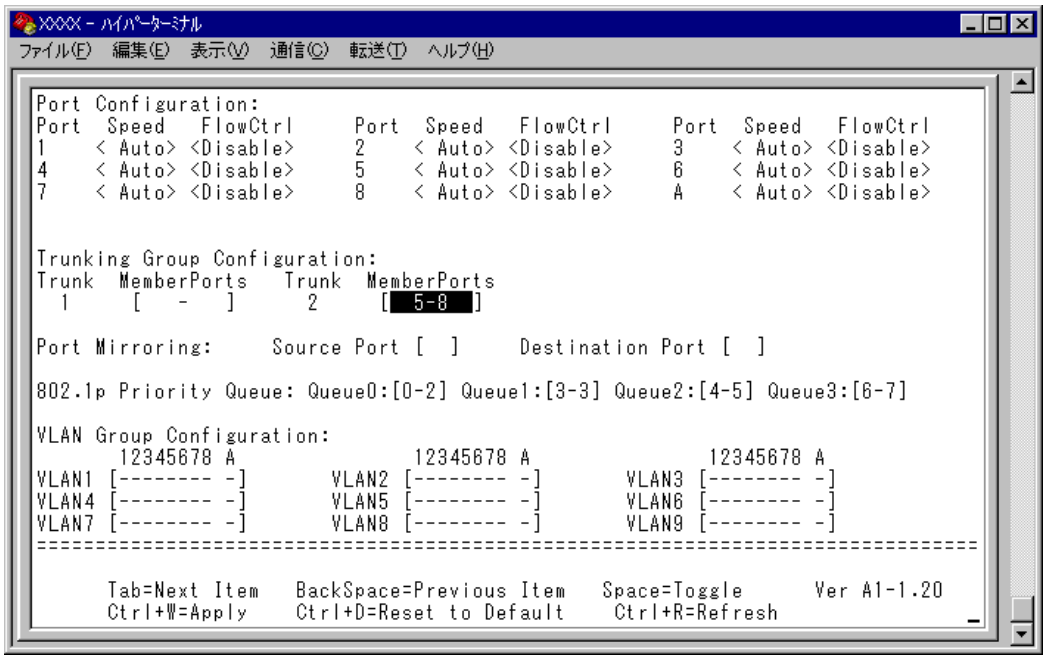
Full duplex時のフローコントロールは、接続先の機器もIEEE 802.3x PAUSE準拠のフローコントロールをサポートしている場合に限り機能します。

Enable　フローコントロール機能（Half Duplex時＝バックプレッシャー、Full Duplex時＝IEEE802.3x PAUSE）を有効にします。
フローコントロール機能は、スイッチ内部において受信側の転送速度が送信側の転送速度より遅い場合や、受信パケットが特定のポートに集中する場合に、バッファーオーバーフローによってパケットロスが生じることを未然に防ぐ機能です。バッファーメモリーを監視し、空きが減少してくると、Half Duplex時はジャム信号を、Full Duplex時はPAUSEパケットを送信側のポートに送出し、一時的に送信を停止させることでフロー制御を行います。

Disable　フローコントロール機能を無効にします。

ポートトランキング

Trunking Group Configuration



ポートトランキングに関する設定を行います。
ポートトランキングは、複数の物理ポートを束ねて使用することにより、スイッチ間の帯域幅を拡大する機能で、主にトラフィックの集中によってボトルネックが発生しやすいバックボーンや、クライアントからのアクセスが集中するサーバーに対して使用します。複数の物理ポートは、論理的に1本のポートとして取り扱われ、VLANからも単一のポートとして認識されます。このとき、常にVLANグループよりも、ポートトランキンググループが優先されるので、VLANの設定によって、ポートトランキンググループが分割されることはありません。
また、1本の物理リンクに障害が発生しても、残りのリンクによって通信を継続するという冗長機能も提供します。

Trunk

本製品は1台につき2グループまでのトランキンググループが設定でき、2グループの同時使用が可能です。

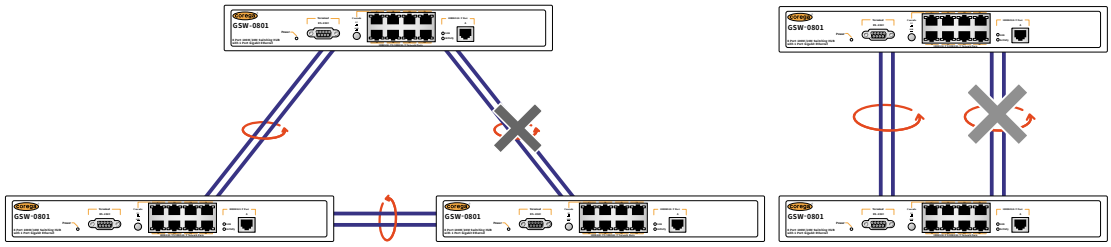
MemberPorts

1グループで2～4ポートをトランキングすることができ、最大で800Mbpsの帯域を確保できます。

各トランキンググループに設定可能なポートの範囲は以下のとおりです。スペースキーを使用して、各トランキンググループのポート番号を指定します。

□Trunk 1　……1-2～1-4
□Trunk 2　……5-6～5-8

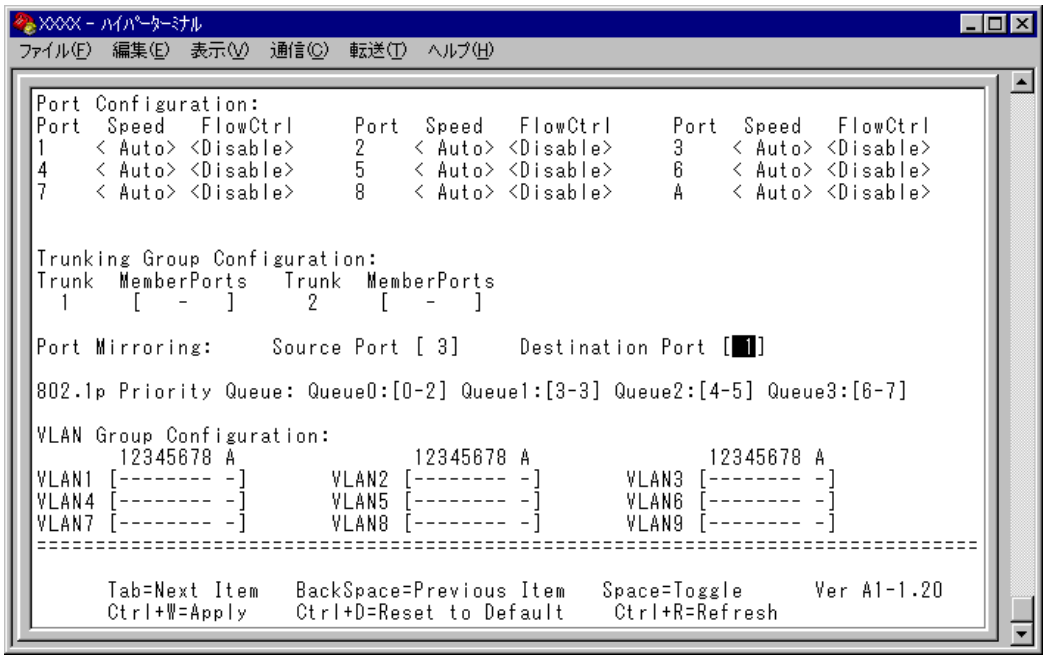
本製品は、1台で複数のトランキンググループが設定可能ですが、下図のようなネットワーク構成での設定はループが形成されるため避けてください。



本製品は、同一機種同士のトランク接続が可能です。その他のトランク接続が可能な弊社製品については、弊社ホームページの「テクニカルサポート/動作検証リスト」でご確認ください。
弊社ホームページ　http://www.corega.co.jp/

ポートミラーリング

Port Mirroring



拡張ポートを含む任意のポートを通過するトラフィックを指定した別のポートにコピーし、接続したモニタリング用のデバイスを通じて、パケット解析を行うことができます。障害の多発するポートやその他の問題の解析に有効です。

Source Port

パケット解析を行うポートを指定します。
Source Portの送信と受信の合計レートがDestination Portの送信レート（ポートの最大帯域）を超えた場合はSource portの設定によってそれぞれ以下の制限を受けます。

FlowCtrlがEnableの場合： 受信パケットをフローコントロールします。
FlowCtrlがDisableの場合： 受信/送信パケットを均等にロスします。

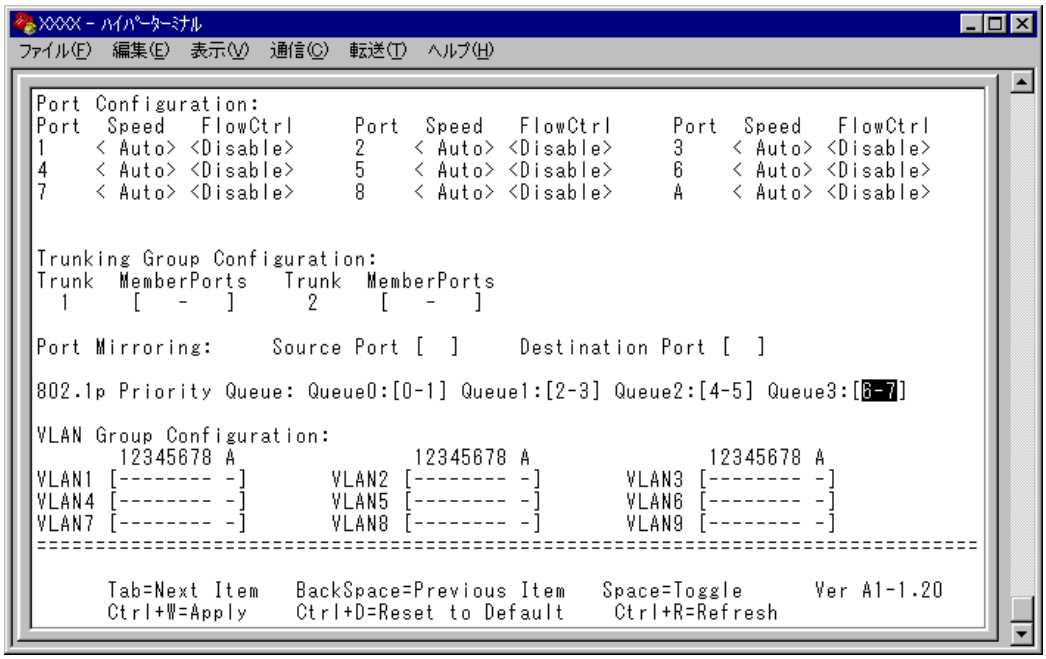
Destination Port

モニタリング用のデバイスを接続するミラーポートを指定します。
このポートは通常のイーサネットポートとして機能するため、受信パケットがあった場合は正常にフォワードされます。

Source PortとDestination Portを異なるVLANグループに設定することはできません。

プライオリティキュー

802.1 Priority Queue



この機能はIEEE 802.1pによって定義されたプライオリティタグの優先度を設定することができます。この設定は本製品のすべてのポートに適用されます。
プライオリティタグを付与することができるスイッチのあるネットワーク環境で有効になります。
プライオリティタグは優先度の最も低い0から順に最も高い7までがデータに割り当てられており、この設定では優先度の高いQueue3から順にQueue0までのそれぞれに入れるタグの値をカスタマイズすることができます。（プライオリティタグが付与されていないデータはQueue0で処理されます。）4つのキューの処理に使用される優先度の比率は高い順に15:7:3:1に固定されています。すなわち、Queue3が15回処理されるあいだにQueue2は7回、Queue1は3回、Queue0は1回ずつ処理されることになります。

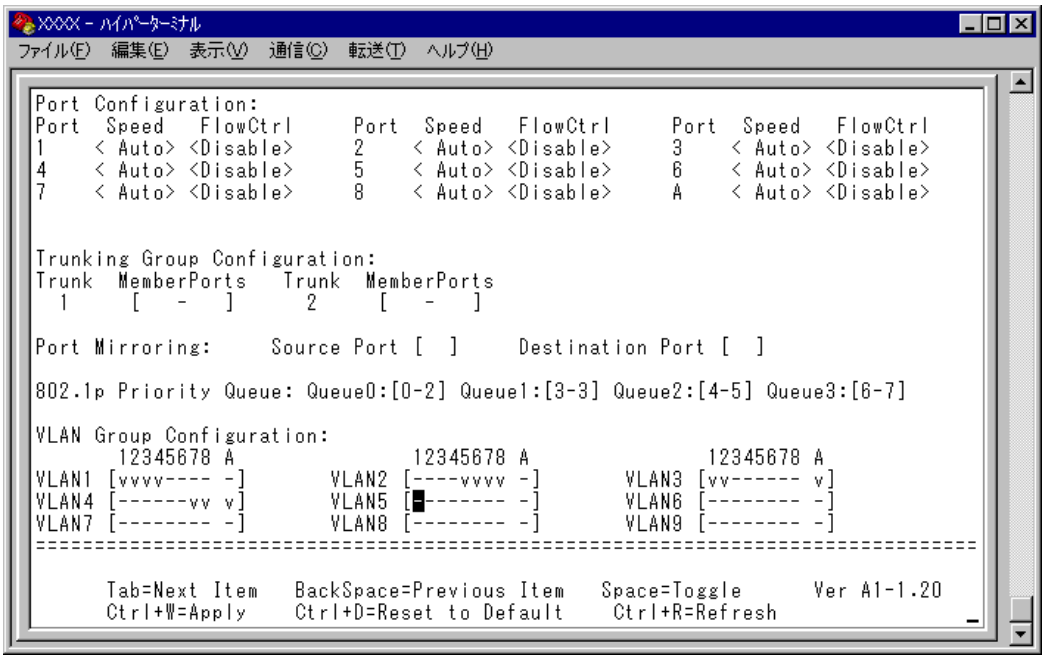
Queue0 ～ 3

スペースキーを使用して、各Queueに割り当てるタグの値を0～7の範囲で指定します。デフォルトは以下のとおりです。

□Queue 0 ……0-2
□Queue 1 ……3-3
□Queue 2 ……4-5
□Queue 3 ……6-7

バーチャルLAN

VLAN Group Configuration



バーチャルLAN（VLAN）は、スイッチ内で仮想的に独立したLANを構築する機能です。
通常、スイッチのすべてのポートは、同一のブロードキャストドメイン（ブロードキャストパケットが届く範囲のネットワーク）に属します。
一方、VLANでは、ブロードキャストパケットの届く範囲を制限し、通信可能なグループに論理的に分割することにより、各グループごとに別々のスイッチに接続するのと同様のネットワークを構成することができます。
論理的にグループ分けを行うため、物理的な構成に依存することなく、自由なネットワーク設計が可能になるという利点があります。
本製品は9個までのVLANグループを設定することが可能です。個々のポートは同時に複数のVLANグループに属することができ、互いに重複したVLANグループを形成することが可能になります。

VLAN1～9

画面の縦軸（1～9）はVLANグループ、横軸はポート番号を示します。
スペースキーを使用して、VLAN1～9に割り当てるポートを指定します。
「v」はポートが指定したVLANグループに含まれていることを表します。

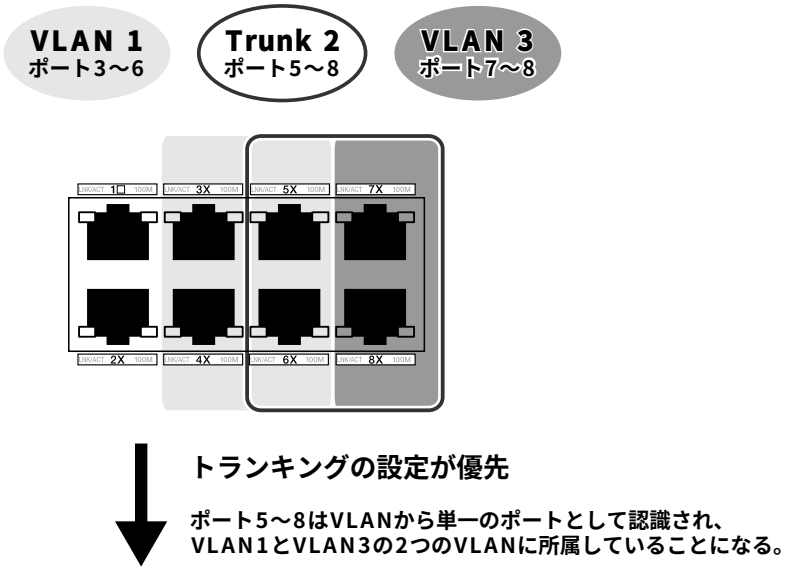
ポートトランキング機能と併用する場合
複数のVLANをまたがるポートトランキングを設定した場合は、ポートトランキングの設定が優先されます。

例）
VLAN設定（VLAN Group Configuration）とポートトランキング（Trunking Group Configuration）で、次のような設定をします。

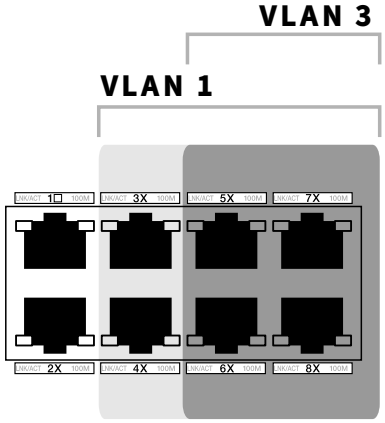
Trunk 2　……ポート5～8
VLAN 1　……ポート3, 4, 5, 6
VLAN 3　……ポート7, 8

VLANのみを設定している場合は、VLAN 1とVLAN 2の間で通信はできませんが、トランキングを設定した場合は、トランキングの設定が優先されるため、ポート5～8はVLAN 1とVLAN 2の両方のVLANに所属しているのと同じ状態になります。

設定内容



実際のVLANグループ



3

付　録

この章では、トラブルシューティング、製品仕様について説明しています。

3-1　トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処法について説明します。以下の処置をしても正常に動作しないときは、coregaサポートセンターまでご連絡ください。

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

LED 表示の確認

□ 100BASE-TX/10BASE-T ポート

LED	色	状態	表示内容
Link/Act	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
		消灯	リンクが確立されていません。
100M	緑	点灯	100F(100M Full)/100H(100M Half)に固定設定されているか、もしくは、Auto設定時に100Mbpsで動作しています。
		消灯	10Mbpsで動作しています。

□ 1000BASE-T ポート

LED	色	状態	表示内容
Link	緑	点灯	リンクが確立しています。
		消灯	リンクが確立されていません。
Activity	緑	点灯	パケットを送受信しています。
		消灯	パケットが送受信されていません。

電源を投入したが、Power LED が点灯しない

□　**電源ケーブルが、正しく接続されていますか。**

□　**電源ケーブルに断線等はありませんか。**

□　**指定された電源電圧を使用していますか。**
AC100V、50/60Hzの電源電圧で使用する場合は、必ず、同梱の電源ケーブルを使用してください。

ネットワークケーブルを接続しても Link LED が点灯しない

□ **接続先の機器に電源は投入されていますか。**

□ **ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか。**

□ **接続先のポートと正しい通信モードで接続されていますか？**
1000BASE-Tポートの通信モードはAuto（オートネゴシエーション）のみをサポートしています。1000Mbpsの通信を行う場合は、接続先の機器もオートネゴシエーションに設定してください。

□ **本製品のカスケードポートを確認してください。**
ストレートケーブルを使用して100BASE-TX/10BASE-T ポートでリピーターやスイッチをカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポート（ポート1）と他のリピーターやスイッチの100BASE-TX/10BASE-Tポートを接続してください。その際、HUB/PC切替スイッチはHUBに設定してください。

□ **正しいUTPケーブルを使用していますか。**
10BASE-Tの場合はカテゴリー3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリー5のUTPケーブルを使用します。1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリー5（および同等仕様）のUTPケーブルを使用してください。

□ **UTPケーブルの長さが制限を越えていませんか。**
100BASE-TX/10BASE-T、または1000BASE-Tの場合、ケーブル長は最大100mと規定されています。

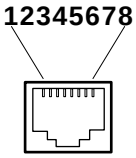
3-2 仕 様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクターのピンアサインなどを説明します。

コネクター/ケーブル仕様

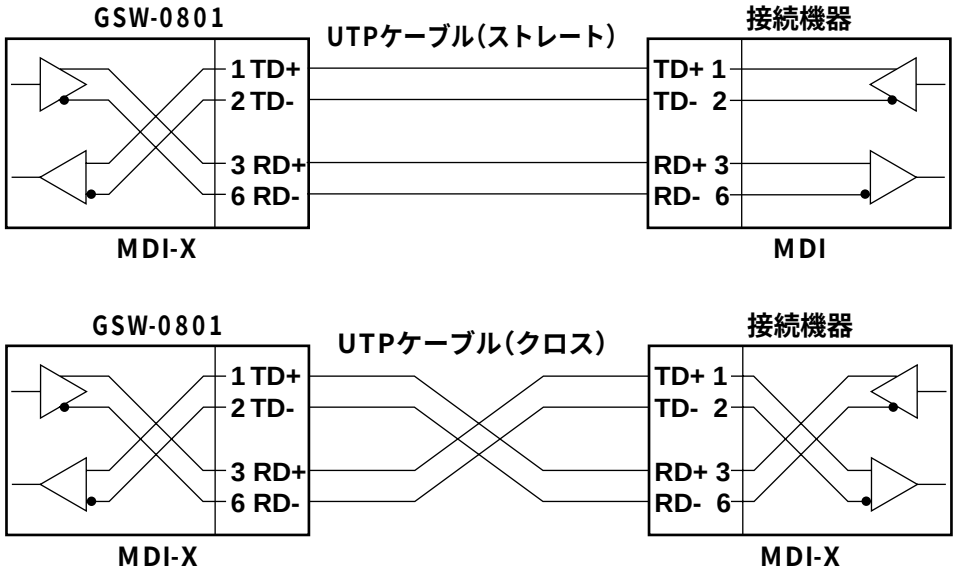
100BASE-TX/10BASE-T インターフェース

RJ-45型のモジュラージャックを使用しています。

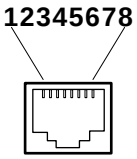


コンタクト	MDI信号
1	TD+（送信）
2	TD−（送信）
3	RD+（受信）
4	未使用
5	未使用
6	RD−（受信）
7	未使用
8	未使用

ケーブルの結線は下図のとおりです。



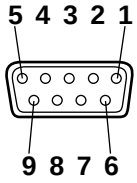
1000BASE-T インターフェース



コンタクト	MDI	MDI-X
1	BI_DA+	BI_DB+
2	BI_DA−	BI_DB−
3	BI_DB+	BI_DA+
4	BI_DC+	BI_DD+
5	BI_DC−	BI_DD−
6	BI_DB−	BI_DA−
7	BI_DD+	BI_DC+
8	BI_DD−	BI_DC−

RS-232C インターフェース

D-sub9ピン（メス）タイプのコネクターを使用しています。



RS-232 DCE	信号名（JIS規格）	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD（TD）	送信データ
3	RXD（RD）	受信データ
4	DSR（DR）	データセットレディ
5	SG（SG）	信号用接地
6	DTR（ER）	データ端末レディ
7	CTS（CS）	送信可
8	RTS（RS）	送信要求
9	NOT USED	未使用

3-2　GSW-0801の仕様

サポート規格	
	IEEE802.3 10BASE-T IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE802.3ab 1000BASE-T IEEE802.3x Flow Control IEEE802.1p Class of Service, priority protocol
転送モード	
	ストア&フォワード
電源部	
定格入力電圧	AC100V-240V
入力電圧範囲	AC90V～255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	1.5A（AC100V-120V）
平均消費電力	25W（最大28W）
平均発熱量	22kcal/h（最大24kcal/h）
環境条件	
保管時温度	-20～60℃
保管時湿度	95%以下（ただし、結露なきこと）
動作時温度	0～40℃
動作時湿度	80%以下（ただし、結露なきこと）
外形寸法（突起部含まず）	
	324(W) X 231(D) X 44(H)mm
重量	
	2.4kg（電源ケーブルを含まず）
MACアドレスエントリー数	
	16,000個（最大）
MACアドレス保持時間	
	10分
メモリー容量	
	4MByte
適用規格	
安全規格	UL1950
EMI規格	VCCIクラスA

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

4

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

4-1　保証とユーザーサポート

保証と修理について

保証について

本書に記載されている、「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で製品を保証するということではありません。正しい使用法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。詳しくは、本書に記載されている「製品保証規定」をお読みください。また、本製品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

修理について

故障と思われる現象が発生した場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛に製品をお送りください。

製品を送られる場合は、次の点にご注意ください。

- 保証書に販売者の押印がない場合は、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。
- 弊社サポートセンターへ製品を送られる場合の送料につきましては、送り主様のご負担とさせていただきます。
- なお輸送中の事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 宅配便など、送付の控えが残る方法でお送りください。（普通郵便による送付は、固くお断りいたします。）
- 修理期間は、製品到着後10日程度（弊社営業日数）を予定しております。
- 誠に申し訳ございませんが、直接来社されてのサポート依頼は受付けておりませんので、製品は必ず宅配便などでお送りください。

製品送付先　〒222-0033　横浜市港北区新横浜1-19-20
（株）コレガ　coregaサポートセンター宛

corega 製品の情報を知りたいときには

当社のホームページに、最新情報や製品についてのQ&Aなどを掲載しています。どうぞご利用ください。

- coregaのホームページにアクセスしてください！
  http://www.corega.co.jp/
- 「corega Net-News」のご案内
  「corega Net-News」はコレガ社がお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりな情報をお届けいたします。メール配信サービスをご希望のお客さまは、coregaホームページでご登録ください。尚、メール配信サービスはどなたでもご登録いただけます。

ユーザーサポートについて

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAXしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAXによって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268
月～金（祝・祭日を除く）
10:00-12:00、13:00-17:00
Fax: 045-476-6294

なお、電子メールによるサポートは行っておりませんので、ご了承ください。

4-2　調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも、以下の点にそって十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

使用しているハードウエアについて

□　製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。
シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)

お問い合わせ内容について

□　どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。

□　エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

□　ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

□　他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

おことわり

本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2001 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの商標です。
Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
本書に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。
2001 年 4 月 Rev.A 初版

調査依頼書（corega GSW-0801）

年　月　日

一般事項

1. 会社名（個人名）：　　フリガナ：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒

   TEL:　(　　)　　FAX:　(　　)
2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　連絡先（TEL）:　(　　)

ハードウェアとネットワーク構成

1. ご使用のハードウェア機種（製品名）、シリアル番号、リビジョン

   製品名：corega GSW-0801

   S/N_____ Rev___

2. お問い合わせ内容　　□別紙あり　　□別紙なし
   □設置中に起こっている障害　　□設置後、運用中に起こっている障害

3. ネットワーク構成図　　□別紙あり　　□別紙なし

製品保証規定

■　この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

・ハードウェア本体：製品保証書に記載の“保証期間”で無償保証とします。（但し、本規定の他の条項に準じます。）

・電源ケーブル：1年保証

・本体付属品：3ヶ月保証

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1.使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2.お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3.火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4.接続された他の装置が原因で生じた故障および損傷
5.車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6.消耗品の交換（バックアップ電池など）
7.製品保証書の提示がない場合
8.製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（１年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製品名　corega GSW-0801

シリアル番号
（S/N）

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター
TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294
住所：〒222-0033　**横浜市港北区新横浜** 1-19-20
受け付け時間：10:00 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00
月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印がない場合は、有償扱いとなりますので予めご了承ください。
※製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。